

政務活動報告書

会派名 政心公明

年 月 日	令和 4 年 11 月 10 日 ~ 令和 4 年 11 月 12 日				
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	富山市まちなか総合ケアセンター(富山県富山市)、サイエンスヒルズこまつ(石川県小松市) 弘前駅~新青森駅~大宮駅~富山駅(富山市1泊)~金沢駅~小松駅(小松市1泊)~小松空港~ 羽田空港~青森空港~弘前バスターミナル				
相手方 (会議名等)	富山市及び小松市における行政視察				
参加議員名	鶴ヶ谷慶市、清野一榮、小田桐慶二、外崎勝康				
活動の概要	別紙のとおり				
	※会議・研修資料等があれば、添付してください。				
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額		領収書番号	支払証明書番号
	旅 費	259,600	円	1	
	宿泊料	76,144	円	2,3	
	観覧料	2,000	円	4	
	タクシー料金	1,710	円	5,6	
			円		
			円		
	合計額	339,454	円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり、				

令和4年度政務活動報告

会派 政心公明
鶴ヶ谷慶市

視察月日 令和4年11月11日(金)
視察先 富山県富山市
視察項目 まちなか総合ケアセンターについて
説明者 富山市まちなか総合ケアセンター
参事・所長 山田弘美氏

富山市は人口約41万人、面積約1241㎏の県都である。今回は、まちなか総合ケアセンター整備に至る経緯等について伺う。中心市街地4小学校の統合時、中心部にあった総曲輪小学校跡地に建設。平成27年工事着工、29年度4月使用開始する。まちなかケアセンターとは、子育て支援や在宅医療、地域コミュニティの醸成などを支援するための事業を展開し、乳幼児から高齢者、障害者を含む全ての地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進している。

1. 病児保育室
子供が体調を崩し、保護者が仕事等で家庭保育できない場合、保護者の代わりに保育看護を行っている。最大で1日約6人程という。8人のスタッフで行っている。
 2. まちなか診療所
在宅医療の推進を目的として、6つの取組みを行っている。病院から在宅への移行を支援し365日24時間、医師3名と看護師で対応している。地域の診療所等の在宅医療をサポート。訪問診療を必要な期間交代。落ち着いたら地域の診療所等に紹介。研修・実習の場の受け入れ及び在宅医療に関する勉強会等。在宅医療の啓発として市民や専門職に対し施設内研修の実施や地域公民館などで出前講座を行っている。150～160の方が利用している
 3. 産後ケア応援室
産後のお母さんの心身の回復と子供との新しい生活を安心して過ごす事が出来るようサポートしている。現在5部屋あり、おおむね4ヶ月までの子供が利用でき助産師が対応している(年末年始は休み)
 4. 子供発達支援室
心身の発達の遅れが心配される子供さんへの早期支援と保護者の不安軽減を図るため、相談や訓練などに切れ目ない支援を行っている。
- その他医療介護連携室・カンファレンスルーム・まちなかサロン・地域連携室などの事業を行っている。

視察で感じられたことは、地域住民が一体的持続的に健康まちづくりに取り組む仕組みを目指していることが伺える。全国の自治体から視察が相次いでいるということからも、その取組み姿勢が評価されている事と思う。ただ残念なのは、コロナで利用者が若干減少しているとのことだが、コロナが落ち着けば、以前のように利用者も増加すると思っていると話していたことが印象的だった。

視察月日 令和4年11月11日(金)
視察先 石川県小松市
視察項目 サイエンスヒルズこまつについて
説明者 ひととものづくり科学館
副館長 宮島浩典氏

小松市は人口約10万人面積約371㎢石川県で3番目に人口の多い市である。小松市は古くから、ものづくりの街として発展してきた。その高い技術力を継承し科学技術国をリードする人材育成と、産業の集積を目的に「サイエンスヒルズこまつ」が整備された街であるという。

視察に先立ち、小松市議会副議長片山瞬次郎氏より歓迎の挨拶を頂く。

「未来を創る人づくり、ものづくり」をテーマとしたサイエンスこまつのコンセプトは、ものづくり精神の継承と科学技術の啓発。ものづくりの現場と科学の原理を融合した体験型展示場「ワンダーランド」や日本最大級のドーム型3Dシアターなどが人気を集めているという。

子供から大人まで科学を通じてものづくりが好きになるような体験イベントを提供している。

科学館では、体験型展示場・工作室・実験室・イベントホール・3Dスタジオがあり、子供たちに科学を楽しんでもらう目的で、子供たちが何に興味を持つかを注視しているようである。

科学館は、館長1名・アドバイザー5名・職員21名で、運営しており年間予算は約6000千万とのこと。驚いたのは四半期ごとに発行される、サイエンスヒルズこまつ通信で、ゲスト講師による教室・体験教室・大人講座等々数多く開催されており特に夏休みや冬休み期には、ほぼ毎日のように教室が開催されているようである。

小松市の科学教育に対する熱い思いを感じられた視察であった。

最後に冒頭の挨拶から施設見学終了まで、副議長の片山氏が副館長の宮島氏と一緒に我々に同行されたことに感謝して視察報告とする。

高山市子ども総合センターは、子育て支援、在宅医療、地域子育てセンターの
 醸成の中心に推進するための事業を展開している。乳幼児から、高齢者、障害者を
 含む、全市域住民が安心して暮らせる地域づくりを、健康づくりを
 実践している。又、総合運動センター内には、民間施設もあり、行政や大学
 企業、NPO法人、地域住民が一体的、協力的に健康づくりを取り組んで
 いる。この施設は、高山市内にある。旧学校跡地を活用して平成29年3月の竣工して
 同、財源40%、市50%で整備されたものである。その中でも子ども診療所は、
 24時間365日、医師4名、看護師2名で稼働している。特徴としては、がん末期の
 利用者の多いこと、中心部地域への利用可能であり、市部中心部まで16分程度
 も、応診していること、市役所と~~隣接~~連携して利用者も安心していること
 等、利用者は15名程度で年々増加傾向である。病児保育室もあり、子供が体調を
 崩した場合、保護者のみならず、保育看護士もいる。料金は一律2000円で8人まで70
 対応している。産後ケア支援室の特徴は、産後不安障害などに産後4ヶ月までの
 問題解決に向けてという目的で、高山市内だけでなく、周辺市町村の利用も可能にして
 いる。全国初というところから、助産婦、保健師15名で運営している。国の補助も該当する
 という事だ。稼働率は85%というところから、これは大変支援されている。心身発達から心配
 して、早期支援と保護者の不安軽減を図るため、相談、訓練を10ヶ月間の
 支援としている。この担当は市の障害者福祉課が担当し、市外7-7を構築している

地域連携室は健康、介護予防、在宅医療の3つの研究会の行っており
 これも市民連携に活用され、担当は保険医。55年か2日二世代にわたる
 市民の自由に参加でき、無料の開放であり、利用者も増加傾向にある。

建物の特徴として電力供給のストップの場合、最低限の機能を維持できるように
 太陽光パネル(5kW)、蓄電池(20kWh)を設置している。

お話し、市民の健康に貢献したい。ケアセンターで全て解決し、という取組みに
 感心した。全国にリーディングの自負感もあり、当市でも参考になる事を思った。

「科学とは何ぞや」という問い、一大交流拠点として、未来創造力と育むステーションとして
科学の楽しさ、驚き、魅力にあふれています。みんなの科学に出会い、みんなの好奇心を伸ばす
ことこそ、みんなの成長の場「科学創造センター」の役割です。

開館に至る経緯は平成2年「松本市科学センター」の設置により、跡地活用のため
小松駅周辺活性化会議の議案、提案により設立し市長に答申し

平成26年に工事着工に至った。総事業費は約億7千4百円、市国庫支出金4億6千4百円
国の補助は社会資本整備総合交付金である。平成26年3月22日合同で

運営は小松市運営である。将来は施設管理に民間意向、管理料は年約5600万円
物販有料体験料は自己運営です。施設は日本最大級の3D、直径16メートルの円形

シアターホール(ロボト)と併設する充実感があり、小松市の未来を担うための必修の場
県内の小学生は勿論、県外からの見学者も増えています。県外の子供は200円徴収して

年間への流動性を確保していく計画があり、一流の人材を招き入れる。松本零士氏、
山崎直子宇宙飛行士、JAXA大西拓哉宇宙飛行士、油井亀美也宇宙飛行士の講演等々

そのほか、松本零士氏の名誉館長、山崎直子宇宙飛行士の令和元年10月に
館長に就任する予定。山崎氏は令和3年に退任予定。

施設も体験型展示場、ワークショップ(工作室)、ミララボ(実験室)
わくわくホール(イベントホール)など3Dステイタ、等々、見ると体験して感動して、皆の子

子供達の心を掴む科学の館に充実しています。

「科学」といふ。この施設は至りに北陸の中心とほり自奥心がある。これにて
 突然、熱動した施設にた。

研修月日:令和4年11月11日(金)

研修場所:9時30分~11時10分

富山県富山市

・富山市まちなか総合ケアセンターについて

□説明

所長 山田 弘美氏

所長代理 笠間 溪子氏

14時~16時

石川県小松市

・サイエンスヒルズこまつについて

□説明

副館長 宮島 浩典氏

市議会副議長 片山 瞬次郎氏

研修報告

「富山市まちなか総合ケアセンターについて」

- ・JR富山駅から徒歩15分に位置する、平成29年4月オープンの総曲輪(そうがわ)レガートスクエア(複合施設)内に富山市まちなか総合ケアセンターがある。
- ・平成20年に4つの小学校の統廃合により芝園小学校が誕生し、廃校となった4つの小学校の跡地活用の一つが医療、福祉、健康の交流拠点としての整備であった。
- ・旧総曲輪(そうがわ)小の立地条件も良く、敷地一帯には「まちなか総合ケアセンターのほか」に
1.立体駐車場 2.ゲンゼスポーツ 3.青池学園(富山リハビリテーション医療福祉大学校・富山調理製菓専門学校) 4.一般社団法人新草会 5.まちスポとやま(NPO法人) 6.バルツェル(製薬メーカー運営のイタリア料理店) 7.ギャザリングスペース(レンタルスペース) 8.富山市医師会看護専門学校等の施設が集っている。
- ・また、近隣住民の要望により旧小学校の体育館を残し、住民の健康づくりや敷地内の専門学校の体育の授業に使われている。
- ・3階建ての総合ケアセンターは、子育て支援、在宅医療、地域コミュニティの醸成などを推進するための事業を展開し、乳幼児から高齢者、障がい者を含む地域住民の健康まちづくりを推進している。

□産後ケア応援室

助産師15名で運営(市直営)

デイケア、宿泊、教室の事業を行っている。

宿泊は年末年始を除いて、24時間体制で、客室5室を備えている。(稼働率60~80%)

□まちなか診療所(在宅専門診療所:機能強化型在宅診療支援診療所)

医師4名、看護師3名、24時間365日対応

要介護3以上、看取りまであり。

末期がん患者が 50～60%

定期訪問診療を行い、地域の診療所等の在宅医療のサポートや、出前講座、研修を行っている。

・その他各種取り組みが一体的に行われ、また周辺施設等の連携も重層的に行われている。

※所感

本県八戸市にも同様の施設がある。しかし周辺の民間施設と連携するようなものにはなっていない。立地環境の違いもあるが、富山市の場合は、市内中心部に小学校の統廃合により敷居があったことにより、民間施設も立地しやすかったのではないかと。ケアセンター単体の事業も素晴らしく、重要なものであるが、医療健康に関連する民間施設との連携により、更なる効果が出ているように思われる。

一方、本市においても市立病院利活用計画において、構想がまとまってきているようであるが、健康都市を目指す弘前市として、旧小学校跡地利用について、大いに参考とすべき点があるのではないだろうか。

「サイエンスヒルズこまつについて」

- ・平成 21 年 4 月にコマツ小松工場閉鎖に伴い、跡地活用のための「小松駅周辺活性化会議」が設立された。
- ・市議会にも特別委員会が設置され、「ひとものづくり科学館」のアイデアが提案された。
- ・平成 24 年着工し平成 26 年 3 月全館オープン
- ・市教育長が館長となり、職員 21 名、直営で運営している。
- ・スポンサー(展示協力)6 社
- ・連携期間
国立天文台、国立極地研究所、北陸先端科学技術大学院大学、JAXA(宇宙航空研究開発機構)、金沢大学、公立小松大学
- ・主要施設
3D スタジオ(120 席)、ワンダーランド(ものづくり、科学体験)、フューチャーラボ(技術工作室)、ミラクルラボ(科学実験室)、わくわくホール(イベントホール)、カフェレストランなど
- ・令和元年で 80 万人を達成している。
- ・北陸の科学の拠点。職員のほか多くのボランティア(科学の教師 OB)が参加している。

※所感

子供たちの可能性を広げていく、興味をそそるような展示や体験企画など素晴らしい施設であった。この体験を通して子供たちの夢が大きく膨らむことは間違いない。

また、大人も楽しめる展示である。

弘前市においても同じような施設を作るといふことにはならないが、人づくり・ものづくりの視点で新たな発想が必要ではないだろうか。

弘前らしい人材育成事業を見直す機会としていきたい。

以上

令和4年度政務活動報告

◇研修場所・月日・時間・内容

①令和4年11月11日(金)9:30～11:10 富山県富山市
「まちなか総合ケアセンター」について

②令和4年11月11日(金)14:00～16:00 石川県小松市
「サイエンスヒルズこまつ」について

①「まちなか総合ケアセンター」について

子どもの幸せを最優先する、未来に希望もてる新たな社会を構築するための子育て支援が求められている。

コロナ禍により、少子化が想定を上回るスピードで進み、虐待や不登校、自殺の増加など子どもを巡る課題は深刻化している。

この度、子育て支援などの先進的な取組をしている「まちなか総合ケアセンター」へ視察に伺った。

明確な都市計画を中心に、駅にも近く利便性の良い学校の跡地に官民連携の地域共生社会を目指したエリアとして、いくつかの施設が建設されその中の一つが「まちなか総合ケアセンター」である。

「まちなか総合ケアセンター」は、総合福祉の実現と、さらに確かな人材確保により見事な支援体制を築いている。

街中診療所は4人の医師と3人の看護師により、365日24時間対応し、末期のがんなど難病の方の訪問医療を行っている。また子育て産後ケアは15人の助産師による、24時間対応の宿泊も可能な産後デイケア施設と共に相談室もあり相談内容によっては保健師、精神保健福祉士等と一緒に相談対応を行っている。少子化・人口減少を克服するための子育て支援を推進していると強く思う。

当市においても子育て包括支援センターなど様々努力しており、高く評価できると思う。しかし、富山市などは街づくりと合わせ子育て等総合支援施設を建設し理想的な子育て支援の体制を築いている。

当市において現在最も必要な支援の一つとして、宿泊可能な産後ケア支援であり、そのエリアの確保である。

その為には、新たな総合施設の建設が理想的であると思う。

しかし速やかに実現する為には、ヒロロに子育て包括支援センター専用の新たな

広いエリアを確保するなど具体的なハード面の実現が不可欠であると強く思う。
さらに現状の弘前市の子育て支援センターは、静かな環境でないため、合わせて静かな環境も確保できれば、現状の様々な子育ての課題を克服する子育て支援が可能となる。是非、真剣に検討して頂ければと思う。

発達障害に関しても、充実した体制がとられている。発達障害は専門医でも正しく診察することが難しい面もある。

しかし、発達障害は病気ではなくその子の生まれ持った性質である。
そのため、そのことを正しく理解し、支援していくことにより多くの子どもが自身の人生に絶望することなく前に進んでいけると私は強く思う。

その為にも例えば、弘前市のとても人気のある「びよんびよん広場」は月3日の運用であり改善が不可欠である(せめて週3回の運用)。

富山市の「こども発達支援室」は日・祝日以外毎日運用しており、さらに子どもの3歳児検診などとも連携している。

弘前市に体制強化を全力で取組んでいただく事を強く要望している。

富山市は、官民連携による公共施設(レガートスクエア)の建設に要した時間は、基本計画から施設開始まで4年間である。

弘前市においても、学校跡地が駅の近くあり、その有効活用に関して再考の余地が十分あると私は思っている。

新たな時代を想像した、官民連携の公共施設も弘前に建設できればと、私自身強く思い願っている。

②「サイエンスヒルズこまつ」について

「サイエンスヒルズこまつ」は、ひとものづくりの科学館である。

様々な科学の講座、ゲスト講師による教室、体験教育、3Dスタジオによる特別映像など多岐に渡っている、北陸地区トップの科学館である。

特に驚いたことは、この科学館はして管理でなく教育委員会による直営であることである。体験教室は、学校の授業と連動しており、学校内では難しい実験も科学館の施設では可能である。

さらに、金沢大学と連携し夏休み特別企画など企画内容の内容の深さと多さに関して、直営でここまでやれることに深く感動。

オープンは、平成26年であり、毎年数十件の企画し実現している。

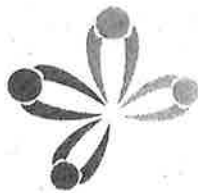
平成30年に、来館者50万人達成。

令和元年に、来館者80万人達成。

石川県に行ったときは、是非多くの皆さんに見学していただければと思う。

以上





富山市まちなか総合ケアセンター

参事・所長 山田 弘美

〒930-0083 富山市総曲輪四丁目4番8号
TEL 076-461-3603 FAX 076-461-3604
E-mail [REDACTED]
URL <https://www.machinaka-care.city.toyama.lg.jp>



都市の理想を、富山から。



SDGs 未来都市
TOYAMA

富山市まちなか総合ケアセンター

主幹・所長代理
笠間 溪子
Kasama Keiko

〒930-0083 富山市総曲輪四丁目4番8号
Tel.076-461-3603 Fax.076-461-3604
E-mail [REDACTED]

副議長
小松市議会
片山瞬次郎

〒923-8650
石川県小松市小馬出町九一番地
TEL(076)224-8138
FAX(076)223-3676



サイエンスヒルズこまつ
未来を創るひとづくり、ものづくり。
ひとつものづくり科学館
science-hills-komatsu.jp

副館長 宮島 浩典
Miyajima Hironori

〒923-8610 石川県小松市こまつ2番地
TEL: 0761-22-8610 FAX: 0761-23-8686
Email: [REDACTED]

政務活動報告書

会派名 政心公明

年 月 日	令和 4 年 12 月 14 日 ~ 令和 4 年 12 月 15 日			
場 所 (市外の場合は 行程を記入)	防衛省(東京都新宿区)、衆議院第二議員会館(東京都千代田区) 弘前駅 ~ 新青森駅 ~ 東京駅(東京都1泊) ~ 新青森駅 ~ 弘前駅			
相手方 (会議名等)	防衛省に対する陳情活動及び勉強会			
参加議員名	清野一榮			
活動の概要	別紙のとおり			
	※会議・研修資料等があれば、添付してください。			
活動に要した経費	主な品目	政務活動費相当額	領収書番号	支払証明書番号
	旅 費	48,210 円	7	
			円	
			円	
			円	
			円	
			円	
	合計額	48,210 円		
備 考	(写真貼付等) 別紙のとおり			

令和4年12月14日

防衛省に防衛大臣政務官木村次郎衆議院議員を訪問し、陸上自衛隊弘前駐屯地の体制維持等について要望した。

具体的には、本年末には、防衛計画の大綱の見直しも予定されており、陸上自衛隊においても今後の配備についての再編計画が行われる可能性があるかと認識しているが、これまで地域とともに歩んできた弘前駐屯地について、再編することなく、これまでどおりの体制を維持し、更なる強化をしていただくことを要望した。

弘前駐屯地は、商工会議所を中心とした誘致活動により弘前に設置されて以来、国防のみならず、災害時の支援、観光や農業といった地域産業への支援、駐屯地に係る経済活動による市経済への効果など、地域の安全や地域経済の面からも当市に欠かすことのできない存在となっているため、本要望活動を行ったものである。

木村政務官への要望活動後、弘前駐屯地指令を務めた経験のある吉田圭秀陸上自衛隊幕僚長を表敬し、同様の要望活動を行った。

令和4年12月15日

衆議院第二議員会館において、防衛関係についての勉強会を行った。

安全関連3文書改定の方角性について、防衛省防衛政策課鈴木健太郎統括班長から説明を受けた。

「国家安全保障戦略」は、外交・安全保障の最上位の指針で

あり、概ね 10 年程度の期間を念頭に、外交・防衛に加えて、経済安全保障、サイバーなどの政策戦略的指針を与えるものとなっている。「国家防衛戦略」は、我が国が目指すべき防衛目標を設定し、その達成に向けた方法と手段を示すものである。「防衛力整備計画」は、防衛費総額や装備品の整備規模を規定し、計画期間も 10 年に延長したとのことであった。また、安全保障上の課題や反撃能力の保有についても説明があった。

我が国を取り巻く国家安全保障上の課題としては、まず中国、北朝鮮、ロシアがあげられ、近年は中国による海洋進出により我が国の南側における防衛力の増強の議論が高まっているものの、青森県は津軽海峡を抱え、また北朝鮮、ロシアにも近いことから、我が国北方の防衛力の増強も必要であると感じたところである。

今後の陸上自衛隊再編計画について（特に第 9 師団の再編等について）は、防衛省防衛計画課業務計画第 1 班河島慎吾防衛部員から説明を受けた。

このうち、弘前駐屯地関係では、偵察隊約 160 人を廃止することであった。

このことは、弘前市の地域経済にとっても大きな損失であり、弘前駐屯地の更なる縮小はあってはならず、偵察隊の廃止を補う他の部隊の移駐を進めるためにも、弘前駐屯地の体制維持と更なる強化のための要望活動の重要性を改めて感じたところである。

防衛大臣政務官



衆議院議員
木村次郎



陸上幕僚長

陸将 吉田圭秀



〒一六二八八〇二
東京都新宿区市谷本村町五番一号
電話 (〇三) 三二六八一三一 一一

防衛省
木村防衛大臣政務官室

小池 菜月



防衛省
〒一六二八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五十一
TEL: 〇三(三二六八) 三二一一 内線 二〇〇二二
FAX: 〇三(五二六九) 三二四二
E-mail: [Redacted]

防衛省
木村防衛大臣政務官 副官

三等陸佐 兼子 航



防衛省
〒一六二八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五十一
TEL: 〇三(三二六八) 三二一一 内線 二〇〇二二
FAX: 〇三(五二六九) 三二四二
E-mail: [Redacted]

防衛省
木村防衛大臣政務官 秘書官

磯間 遼太



防衛省
〒一六二八八〇一 東京都新宿区市谷本村町五十一
TEL: 〇三(三二六八) 三二一一 内線 二〇〇二二
FAX: 〇三(五二六九) 三二四二
E-mail: [Redacted]

防衛省防衛政策局防衛政策課

総括班長

鈴木 健太郎

〒一六二―八八〇―一 東京都新宿区市谷本村町五十一
電話 〇三―三二六八―三一一 内線二〇三六一
FAX 〇三―五三二九―二三三五
メール



防衛省 整備計画局
防衛計画課 業務計画第1班

防衛部員 河島 慎吾
Kawashima Shingo

〒162-8801
東京都新宿区市谷本村町5-1
TEL: 03-3268-3111 (内線20495)
E-mail: [REDACTED]



防衛大臣政務官
木村 次郎 様

要 望 書

令和4年12月14日

弘前市議会議員有志による防衛議員連盟

陸上自衛隊 弘前駐屯地の体制維持・強化に関する 要望

武力によるロシアのウクライナ侵略、中国による尖閣諸島周辺への領海進入、北朝鮮による弾道ミサイル発射等、我が国を取り巻く安全保障環境はより一層厳しさを増しております。特に10月4日の北朝鮮による弾道ミサイル発射は、青森県上空を通過し、4000キロ飛行し太平洋上に落下しましたが、当市を始めたとする青森県民に恐怖を与えました。

当市には商工会議所を中心とした市民活動によって誘致した弘前駐屯地が設立されて54年が経ちますが、地域と共に歩んできた弘前駐屯地は防衛だけではなく、災害時の支援、地域経済の観点からも地元にとってはなくてはならない存在であります。本年末には防衛計画の大綱の見直しも予定されており、陸上自衛隊においても、今後の配備について再編計画が行われる可能性があることを認識致しております。これまで地域と共に、地元市民と共に歩んできた弘前駐屯地について、再編することなく、これまでの体制を維持し、更なる強化をして頂くことを要望いたします。

令和4年12月14日

弘前市議会議員有志による防衛議員連盟 会長

尾崎 寿一

